

平成24年11月6日

第13回 クールジャパン 官民有識者会議に寄せて

東映アニメーション株式会社

顧問 大山秀徳

現在日本は経済の活力低下が指摘され、国民も自信を失いつつあるように見える。しがしながら、情報革命という人類史上かつてない社会の変化のなかで、日本が発する情報、文化は世界に浸透し、注目を集める。だが残念ながら、我々日本人自身がその持つ力に気づいていない。今一度世界の人々に我が日本文化の素晴らしさを知らしめ、日本は信頼に足る、尊敬すべき国、国民であることを広く理解させることこそ急務と思われる。人と人との交流、相互理解こそが、世界平和の原点であり、紛争解決の近道である。一方で、情報は今や立派な商材であり、文化の輸出は国に経済的な利益をもたらす。日本の持つコンテンツ創造力をうまく活用していきたいと思う。

1. 取るべき道:

- (1) 広く情報を発信し、日本文化(我々の今の生き様といってもよい)、を認知せしめる。日本の良さが理解されたところで、若者を中心にインバウンドを大幅に増やす算段をする。日本に滞在させ、実際の生活を体験させる。
- (2) 世界の国々・地域の中で、日本ほど、社会インフラが整い、安全で、清潔で、物価も安く、安心して暮らせるところはない。一方で、日々刺激ある文化に触れることができる素晴らしい場所であることを実感させ、尊敬に値する国の一つであることを理解させたい。

2. 具体策:

アプローチとしては、新旧あらゆるメディアを動員して情報発信を行い、同時に、それが具現化された商品、文化に接する拠点を各国に設置する。結果として彼らの来日に繋げる。これらを官民あげて強力に推進する母体の設立が期待される。

- (1) 地上波、衛星、ケーブルその他の放送、インターネットによる情報発信、特に若者向けの全世界向け24時間放送(リピート可)の実現。グローバル企業への広告、PR 出稿の働きかけ。
- (2) 並行して、各国主要都市に日本文化に触れられるリアルな場所(ショップ、レストラン、イベント広場など)を設置し、簡便に日本の生活を実感してもらう。この拠点については、現地に進出する小売業とのコラボレーションも考えられる。双方にとってメリットがあるはずである。
- (3) 日本に行きたい、日本に住む人間(日本人とは限らない)と交流を深めたいという人たちが増加したところで、日本へのアクセスを整備する。日本に住む人々の生き様こそが今我々が世界に誇る文化であることを彼らに体感させる。彼らを日本文化の虜にしたい。

3. 問題点:

アニメ、テレビ映画、音楽、ゲームなど、海外での露出には各著作者の権利クリアーが不可欠である。またライセンス済みの作品については、現地ライセンシーとの権利調整が欠かせない。一方で、ローカライズの費用をどのように負担するかという問題も存在する。しかしながら、我々が確固たる方針を確立し、海外展開のシステムを粛々と作り上げていけば、問題解決のための話し合いは可能だ。早急にコンテンツホルダーや海外向けコンテンツ配信・放送事業者を集めてのミーティングを設定すべきではないかと考える。

以上